

7.2.4 関節の様式

股関節のような球状の関節は、指骨間の蝶番のような関節よりも可動性、すなわち自由度が高い。

関節の可動性は、向かい合う関節面の形状によって決まり、次のような基本形がある（図7.8）。

- ・球関節 ball-and-socket joint：関節頭は半球形で、対応する関節窩は皿状～碗状をなす（例：肩関節）。関節窩が特に深いものは臼状関節と呼ばれる。この関節も多軸性であるが、関節窩が深いために運動がやや制限される（例：股関節）。
- ・蝶番関節 hinge joint：関節頭が円柱状で、一軸性にしか動かない。例として、肘関節の腕尺関節などがある。
- ・車軸関節 pivot joint：関節頭は円筒状で、対応する関節窩は軸受けのように切痕状をなす。骨の長軸方向に回転する一軸性の関節である。例として、肘関節の上橈尺関節がある。
- ・楕円関節 ellipsoidal joint：関節面が楕円形で、楕円の長軸と短軸の方向に動く二軸性の関節である。例として、橈骨手根関節がある。
- ・鞍関節 saddle joint：関節面が馬の鞍のような形状をしており、互いに直角な二方向に動く。例として、母指の手根中手関節がある。
- ・平面関節 plane joint：関節面が平坦なもので、可動性は少ない。例として椎間関節がある。

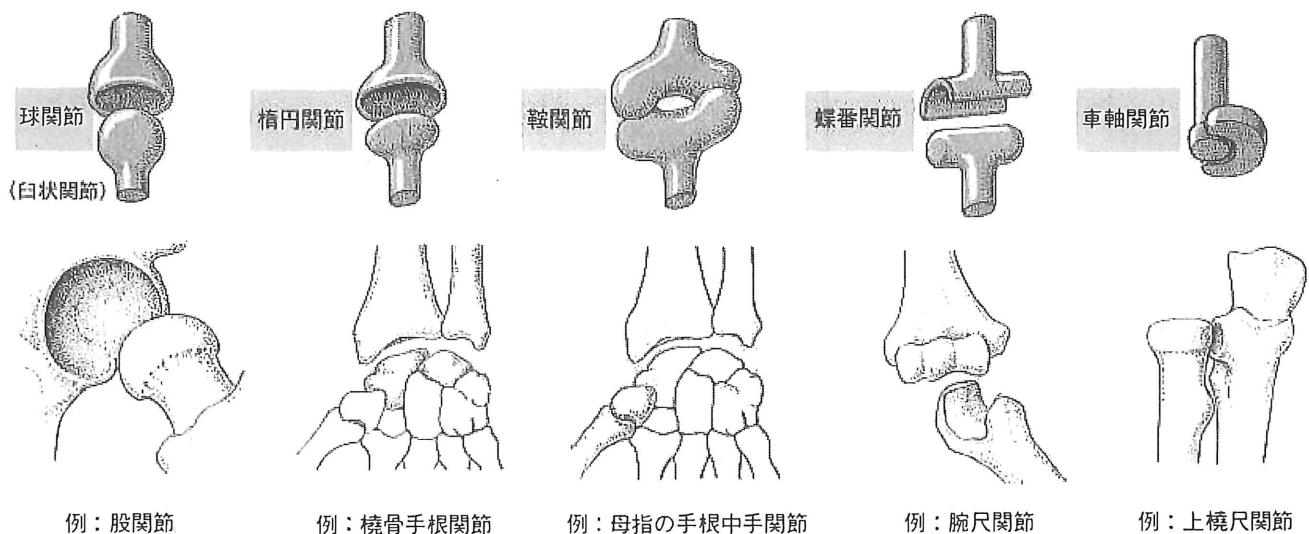


図7.8 関節の種類。